



TITLE:

和歌山県田辺湾におけるギンクラゲ
Porpita pacifica(盤クラゲ目, ギン
クラゲ科)の冬季の異例な漂着

AUTHOR(S):

久保田, 信; 田名瀬, 英朋

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県田辺湾におけるギンクラゲPorpita pacifica(盤クラゲ目, ギンクラゲ科)の冬季の異例な漂着. 南紀生物 2007, 49(1): 41-42

ISSUE DATE:

2007-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188313>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

和歌山県田辺湾におけるギンカクラゲ *Porpita pacifica* (盤クラゲ目, ギンカクラゲ科) の冬季の異例な漂着

久保田 信*・田名瀬英朋**

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: Exceptional winter strandings of *Porpita pacifica*
(Chondrophora, Porpitidae) in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

ギンカクラゲ *Porpita pacifica* LESSON は、帆走性のヒドロクラゲ類の一種で、普段は海面を漂流している。本種は暖海の外洋性種で、南風の連続した吹送によりわが国の太平洋沿岸にしばしば漂着する。しかし、冬季の卓越した季節風は北風なので、はるか沖合いを漂流し、沿岸への打ち上げは見られない(久保田, 2003a)。和歌山県田辺湾岸における久保田の2000年3月から2004年2月までの漂着クラゲ相の調査期間中、ギンカクラゲは5月から11月にかけてのみ漂着した(久保田, 2003b; 2004)。ところが、その後の2007年2月28日までの本種の漂着の継続調査中に、異例の冬季漂着が2006年12月下旬に複数回見られた。この稀な記録と田名瀬が過去に得ていた本種の冬季の漂着記録をあわせて報告する。

1. 2006年と2001年の冬季の記録

2006年12月の22日と27日に1個体ずつ(盤の直径は20 mm, 28 mm)、京都大学瀬戸臨海実験所北浜への漂着が久保田により確認された(図1)。一方、2001年12月13日に同場所で16個体(盤の直径: 最大51.2 mm, 最小9.6 mm)の漂着が田名瀬により確認されていたが、この漂着は久保田(2003b)の報告中にはなかったので、ここに記録する。

2. 2000年以前の冬季の記録

わずかに3回の遭遇が田名瀬によりなされた。瀬戸臨海実験所北浜へ1989年1月に、8日に3個体が、20日に数百個体が漂着した。また、同場所に1992年12月8日に約70個体が漂着した。

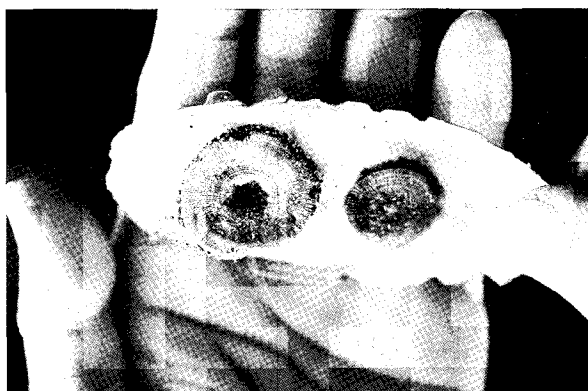


図1 2006年12月22日と27日に瀬戸臨海実験所北浜(和歌山県白浜町)に漂着したギンカクラゲ(山口一夫氏撮影)
Fig. 1. *Porpita pacifica* stranded on December 22 and 27, 2006, on Kitahama beach at the Seto Marine Biological Laboratory, southern shore of Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan (photo: Kazuo YAMAGUCHI)

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp
** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676 676 Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

以上の記録により、京都大学瀬戸臨海実験所北浜には、冬季の12月や1月にも、稀ではあるが、帆走性のギンクラゲが漂着することもあり、通常は少数個体であるが、時として盤の直径が50 mmを超える大型個体も含めて、数百個体もの多数が記録されることがある。しかし、本種が厳冬期の2月と3月に北浜などへの田辺湾周辺海域に漂着した記録はまだない。

上記のような漂着は、冬季の紀伊半島への黒潮の接近とそれに関連したギンクラゲの紀伊水道への運搬、そしてその後の風向により、今回の報告のような田辺湾内の海岸への稀な漂着事象が生じるものと推察される。

なお、本種と同様の生活史を送っている帆走性のカツオノカンムリ *Vellela vellela* LINNAEUSやカツオノエボシ *Physalia physalis* LINNAEUSの場合にも、2000年3月以降2007年2月28日までの久保田の調査期間中、12月から3月までの期間中に北浜への漂着が見られず、本種とほぼ同様の時期に漂着記録がなされている（久保田、2003b, 2004）。

引用文献

- 久保田 信. 2003a: 和歌山県田辺湾およびその周辺海域から記録された有クラゲ類及び有櫛動物の目録－生活史上でのポリプとクラゲの結合. 瀬戸臨海実験所年報, 16, 30–35.
- . 2003b: 和歌山県白浜町番所崎の通称"北浜"へ漂着した大形クラゲ類の季節変化. 漂着物学会誌, 1, 21–24.
- . 2004: 和歌山県白浜町番所崎の通称"北浜"へ漂着した大形クラゲ類の異例な季節変化—前報との比較を含めた続報. 漂着物学会誌, 2, 25–28.

Summary

Porpita pacifica (Chondrophora, Porpitidae) is rarely found stranded in December and January on Kitahama beach at the Seto Marine Biological Laboratory, on the southern shore of Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan. Such winter strandings have been recorded in 1989, 1992, and 2001, along with the most recent record on December 22 and 27, 2006.